

図書館便り 11月号



CLICK しあわせ電子図書館

CLICK 新宮中図書館蔵書検索「カーリル」



デフリンピック

11月15日から26日まで、東京でデフリンピックが開催されました。ニュースや新聞、テレビ番組などで競技の様や結果が伝えられていたので、知っている人もいることでしょう。

デフ(Deaf)とは英語で「耳がきこえない」という意味。デフ+オリンピックで、国際的な「きこえない・きこえにくい人のためのオリンピック」ということです。パラリンピックよりも歴史は古く、第1回大会は1924年にパリで開催されました。今年は100周年の記念すべき大会であるとともに、日本では初開催となりました。

オリンピックやパラリンピックと同様に、4年に1度、夏季と冬季の大会が開かれます。ルールはオリンピックとほぼ同じですが、耳のきこえない人のために様々な工夫がされています。国際手話のほか、スタートランプや旗などを使った視覚による情報が保証されています。

更に今大会では、選手への応援に「サインエール」が用いられました。拍手や声援・応援歌などの音による応援の代わりに、身振り手振りで表す応援の形。ろう者を中心に、デフアスリートと共に開発されました。機会があれば、ぜひ皆さんも使ってみてはいかがでしょうか。参考

東京2025デフリンピックHP



『音のない世界と音のある世界をつなぐ』
松森果林／著
(岩波書店) 369マ

小4で右耳を失聴、中学から高校にかけて左耳の聴力も失った著者が、大学でバリアフリーについて学び、ユニバーサルデザイナーになった想いを綴る。



『みることばさわれることば 手話えほん 1 みんなであいうえお』
スギヤマカナヲ／作
吉岡昌子／手話監修
(あすなろ書房) 801ス

手話は言語であり、世界には手話を公用語としている国も。分かりやすいイラストと解説で、楽しく学べます。手話動画二次元バーコード付。



『デフ・ヴォイス』
丸山正樹／著
(東京創元社) 913マ

ドラマ・映画化もされた話題作。殺人事件の容疑者として逮捕されたとろ者の通訳として、手話通訳士・荒井尚人が法廷に立つ。マイノリティの静かな叫びが胸を打つ社会派ミステリー。



□新宮中読書月間企画第一弾 「クイズスタンプラリー」を延長

12月10日(水) まで実施
貸出冊数 1人3冊まで
まだまだ粗品がもらえるチャンス有り。ぜひご参加ください。

□新宮中読書月間企画第二弾

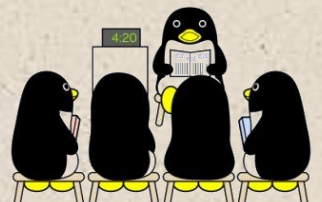
「切り抜き川柳」

新聞の見出しを切り抜いて、五七五の歌を詠みましょう。一句できたら図書館廊下前の掲示板に貼ってください。愉快で楽しい作品をお待ちしています。

□ミニビブリオバトル開催 12月9日(火)～12日(金)

ビブリオバトルとは、「人を通して本を知る、本を通して人を知る」をキャッチコピーに全国に広まった、コミュニケーションゲームです。参加者がそれぞれ好きな本を1冊ずつ持ち寄って紹介。最後に全員で、一番読みたいと思った本を投票で選び、チャンプ本を決定します。今回は、朝読書の時間に各学級で短縮版のミニビブリオバトルを行います。

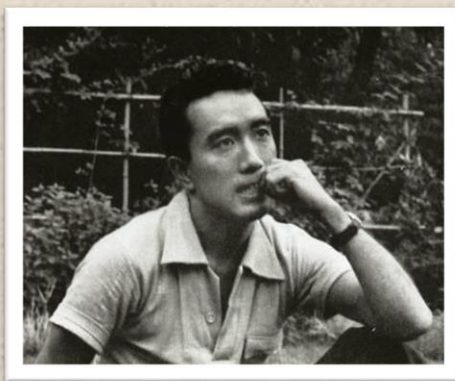
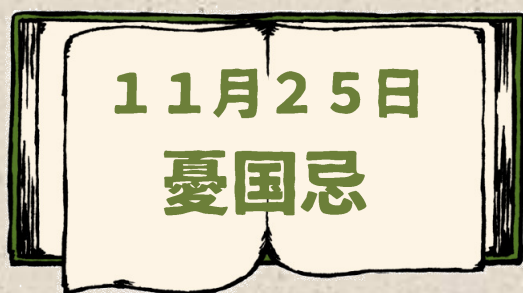
★参考に、昨年図書館で開催したビブリオバトルの動画をClassroom投稿しています。こちらをご覧ください★





連載企画

❖本ごよみ❖



三島由紀夫
(1925～1970)

「憂国忌」は、今年生誕100年を迎えた作家・劇作家の三島由紀夫の命日です。後に自ら映画も制作した短編小説『憂

国』にちなんでいます。

16歳で文壇デビューした才能豊かな三島は、戯曲の演出や俳優などでも活躍した、時代を代表するスター作家でした。

主な代表作は『潮騒』『金閣寺』『豊穡の海』など。海外での評価も高く、何度もノーベル文学賞候補になったと言われています。

戦後の日本が経済的繁栄を遂げる一方で、伝統的な日本の美意識が失われていくことを憂いた三島。自衛隊市ヶ谷駐屯地で決起を呼びかけるも失敗し、割腹自殺で壮絶な最期を遂げました。

出典『ポプラディア情報館 日本の文学』
西本鶏介／監修



国際男性デー

11月19日は「国際男性デー」です。男性・男の子の心身の健康に目を向け、ジェンダー平等を促す目的で、1999年にトリニダード・トバゴで始まったとされます。まだ国際女性デー(3月8日)のように、国連の定める記念日とはなっていませんが、世界各国で男性のジェンダー問題を考えるイベントなどが行われています。

出典『独立行政法人国立女性教育会館HP』



『男子が10代のうちに考えておきたいこと』
田中俊之／著
(岩波書店) 請求記号 367タ

進路や将来の選択にも影響を及ぼす「男らしくあれ」という見えない圧力。性別によって求められる役割や期待のされ方が違う社会において、窮屈な思いをしている若者に向けて新しい生き方を勧める。



今月の新着本

『美しい星』

三島由紀夫／著(新潮社)
請求記号 913ミ



自分たちは別の天体から飛来した宇宙人であるという意識に目覚めた大杉一家。対立する宇宙人〈羽黒一派〉と繰り広げる人類救済の是非を巡る論争は、核時代の人類の不安を見事に捉える。SFエンタメの異色作。

(左)『ぼくのまつり縫い』

神戸遥真／著 (偕成社) 請求記号 913コ



ケガによりサッカー部の練習を休んでいた優人は、強引なクラスメイトに被服部の助っ人にされてしまう。実は裁縫が大好きで、得意な優人。それを恥ずかしく思い、友人に言い出せない自分の気持ちと向き合っていく。

(右)『たてがみを捨てたライオンたち』
白岩玄／著 (集英社) 請求記号 913シ

専業主夫になるべきか悩む出版社社員、離婚して孤独をもてあます広告マン、非モテのアイドルオタク公務員・・・男であるが故に弱音を吐けない日々に、モヤモヤは募る。「男のプライド」の新しい形を探る、問いかけの物語。

